

### 実は縮まっていない 日本のジェンダーギャップ (男女格差)

| 順位         | 国名        |
|------------|-----------|
| 1          | アイスランド    |
| 2          | ノルウェー     |
| 3          | フィンランド    |
| 4          | ニュージーランド  |
| 5          | スウェーデン    |
| 6          | ドイツ       |
| 15         | 英国        |
| 30         | カナダ       |
| 40         | フランス      |
| 43         | アメリカ      |
| 79         | イタリア      |
| 102        | マレーシア     |
| 105        | 韓国        |
| 107        | 中国        |
| 124        | モルディブ     |
| <b>125</b> | <b>日本</b> |
| 126        | ヨルダン      |
| 127        | インド       |

ジェンダーギャップ指数  
(2023年)

これは『ジェンダーギャップ指数』のランキングにおける2023年の日本の順位です。

ジェンダーギャップ指数とは、各国の男女格差を数値化したものです。

『**146カ国中125位**』この数字を見てどう思いますか？

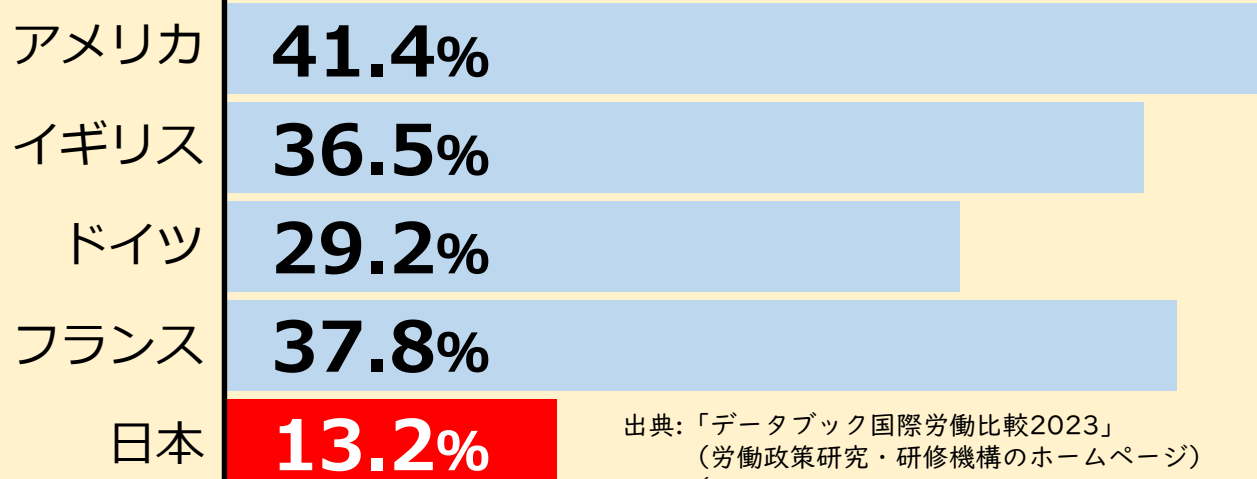
主要先進国の中で最下位です。

しかも、前年の2022年の日本の順位は116位で、1年で**9位も落ちている**のです。

分野別では、日本は『教育』と『健康』の値は世界トップレベルであるのに対し『政治』『経済』の値は低くなっています。

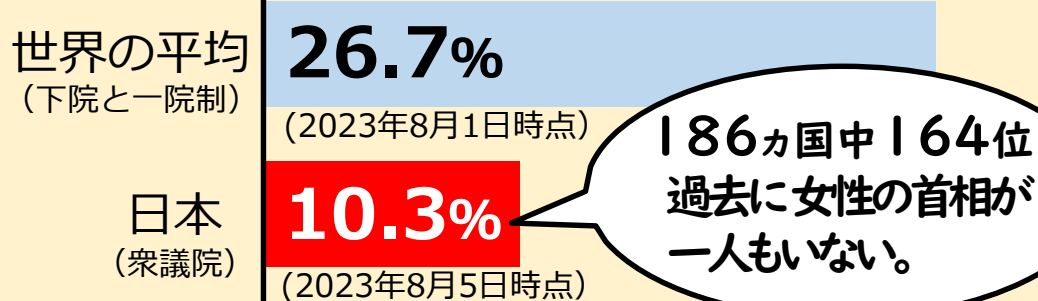
出典: 「ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) 2023年」 (内閣府のホームページ)  
([https://www.gender.go.jp/policy/positive\\_act/pdf/sankou1\\_23\\_09.pdf](https://www.gender.go.jp/policy/positive_act/pdf/sankou1_23_09.pdf))  
「ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) 2022年」 (内閣府のホームページ)  
([https://www.gender.go.jp/research/weekly\\_data/01.html](https://www.gender.go.jp/research/weekly_data/01.html))

#### 女性の管理職の割合 (2021年)



出典: 「データブック国際労働比較2023」  
(労働政策研究・研修機構のホームページ)  
([https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/databook/2023/03/d2023\\_3T-06.pdf](https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/databook/2023/03/d2023_3T-06.pdf))

#### 女性の議員の割合 (2023年8月)



出典: 「国会議員の女性に占める世界および地域平均」 (IPU (列国議会同盟)のホームページ)  
(<https://data.ipu.org/women-averages>)  
「女性議員比率の国際比較」 (内閣府のホームページ)  
([https://www.gender.go.jp/policy/positive\\_act/pdf/sankou2\\_23\\_09.pdf](https://www.gender.go.jp/policy/positive_act/pdf/sankou2_23_09.pdf))

1970年代中期以降  
「夫は仕事、妻は家庭」という意識が根付いている。



岡山労働局 雇用環境・均等室の森井さんからも話を聞きました。



ネットで調べてみたら…

次のページに続く



## 女性の方にも話を聞いてみた

ジェンダーギャップを縮めるため、私達も研究し、ガイドブックを作成したり教材を開発したりしています。少しずつですが、ジェンダーギャップの解消に向けて前進しています。

**君たち男性が改善しようと行動することは、とても良いことだと思います。**



九州大学  
河野銀子さん



公益財団法人  
日本女性学習財団  
村松泰子さん



国立女性会館

< 女性の社会進出を研究・支援されている方々 >



**男性であるボクたちが  
改善に向けて  
積極的に行動するぞ！**

次のページに続く



何ができるか考えてみた…



とは言ったものの…

う〜ん…

ボクたちに  
何ができるだろう…



ボクたちで  
ジェンダーギャップの  
**講義**を試みるのは  
どうだろうか…



でも、どんな風に  
講義をすれば  
いいのだろうか…?



Let's GO!!

そうだ! 学校現場では  
どのような取組みを  
しているかを  
聞きに行こう!



# 岡山市教育委員会の人に話を聞いてみた

学校現場では、次のように意識しながら取り組んでいます。

例えば…

『家庭科』では、**男女関係なく、家族の一員として**家庭の仕事に関わることの大切さを知ってもらう。

『学活』では、**男女の「あっていい違い」と「あってはいけない違い」**について考えてもらう。

みんなが安心して学校生活が送れるような、学級・学校づくりを目指しています。



なるほど…

ただいま計画中…

ジェンダーギャップについて、今まで調べたことや聞いたことを自分たちで講義を試みる。  
人に伝えていく中で、何か新しい発見もあるはず…  
今は、中学生さんに向けての講義を計画中です。  
先生方にも話を聞いてもらおうと思っています。



このイラストを見て何か気づくことはありますか？  
みなさんも考えてみてください。



講義イメージ

出典:「学校における男女共同参画の推進のための 教員研修プログラム 実施の手引き」  
(文部科学省のホームページ)  
([https://www.mext.go.jp/content/20210323\\_mxt\\_kyousei02\\_1416258\\_04.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210323_mxt_kyousei02_1416258_04.pdf))

To Be Continued